

明 — みよう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.11

2009年1月1日発行



御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている

真宗大谷派
東本願寺
750th Shinran

暮らしに
じいん
真宗大谷派
東京教区
www.ji-n.net

今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要



二〇〇八年
本明寺報恩講
十月二十六日(日)

今年も多くの方々にご参詣いただきまして、本明寺の報恩講をお勤めすることができました。今回から毎年お越しいただいているお坊さんに加え、副住職が日ごろから親しくしているお坊さんにもお越しいただきました。また、副住職は初めて『御俗姓(ごぞくしょう)』を拝読いたしました。

『御俗姓』は正確には『御俗姓御文』といい、本願寺第八世であります蓮如上人の御著書です。この『御俗姓』には親鸞聖人の生い

立ちと教化の足跡が述べられ、報恩講における私たちの心得と共に、真実に南無阿弥陀仏を称える者が少ないことを嘆けつつ、真実に南無阿弥陀仏を称えることをあらためて勧められています。拝読作法の練習を何度もしている中で、報





恩講をお勤めすることの意味をあらためて考えさせられました。
いよいよ親鸞聖人七百五十回御遠忌も二年半後に控えております。一人ひとりが報恩講、また真宗の教えを大切にし、そこに願われていることを確認できたらと思います。



◆報恩講お手伝い
報恩講をお手伝いしていただいた方々をご紹介します。
安藤 賢司 川瀬 きぬゑ
郡司 三郎 高田 トヨ
高野 勢津子 宝田 満男
宝田 康子 滝口 泉
滝口 和彦 田中 良子



沼田 博幸 根岸 千栄子
根本 初子 早矢仕 昌治
平山 邦男 横山 ナヲ
若井 武久
お手伝いいただきましてありがとうございます。なお、今後お手伝いいただける方がおりましたらご連絡ください。

◆おみがき奉仕のつどい

十月十九日(日)

報恩講をお勤めするにあたり、おみがき奉仕のつどいを開きました。

おみがき奉仕のつどい参加者

川瀬 きぬゑ 滝口 泉
根岸 千栄子 本田 有希



本田 彰一 本田 隆見
本田 信子 山本 恭子
山本 沙耶佳 山本 豊子
お手伝いいただきました。次回は五月に
予定しております。皆様のご参加を
お待ちしております。



◆新しい報告の形です

お寺の行事を模造紙に写真を貼って掲示しています。お越しの際にはぜひご覧ください。



本明寺に納骨堂ができました



本明寺に納骨堂が完成しました。設置場所は本明寺正面右側、掲示板の裏にございます。

規約、使用料等につきましては、ただいま検討、製作中です。ご利用ご希望の方は本明寺までお問い合わせください。

自殺問題、 そしてグリーンフケアへ

(二〇〇八年十月十五日)

今回は、あしなが育英会・あしながレインボーハウススタッフであります八木俊介さんと、自死遺児でもあり、あしながレインボーハウスに併設されている学生寮「あしなが心塾」に住まわれ、小中学生遺児の「心のケアプログラム」にスタッフとして参加されている大学二年生の方にお話を伺いました。

あしなが育英会は以前は事故や病氣、災害、自死（自殺）などで親をなくした遺児たちに対して奨学金を貸し出し支援していました。しかし、一九九五年に発生し

た阪神淡路大震災を機に、奨学金の支援だけではなく、継続的な心ケアを重要視しており「レインボーハウス」を建設しました。

レインボーハウスはの由来は阪神淡路大震災で遺児になってしまった少女が、黒い虹の絵を描き、この虹を七色の虹に戻したい（心の傷を癒してあげたい）という願いから建てられました。

レインボーハウスはアメリカにある「心のケアプログラム」を行なっている施設を参考にし、悲しみや怒りを素直に吐き出せるように様々な工夫がされています。部屋全体が赤く、サンドバックが部屋の中央に備え付けられ、ストレスや怒りを発散させることができ「火山の部屋」や、自分自身を見つめるためや、親との思い出に

浸りやすいように大きな窓にむけて椅子が備え付けられている「おもいの部屋」などがある。また、ソファアが扇形に並べられ、ぬいぐるみがたくさん置かれている。「しゃべりの部屋」があります。そこでは友達やスタッフに自分の体験を話したり、また他人の体験を聞き「わかちあいの時間」が持たれます。遺児の多くは、親がいないこと素直に友達に話すこと難しく、親がいない友達同士で話すことで共感しあいながら自分自身の胸のうちを表現出来るような話し合いが持たれます。



黒い虹の絵

新潟中越沖地震 災害ボランティア

(二〇〇八年十月十六日・十七日)

二〇〇七年七月十六日に新潟県沖地震が起こり、それから一年三ヶ月が経過しましたが、あらためて柏崎に炊き出しに行きました。



炊き出しではおでんや焼きそば、フランクフルトを出し、現地の方々とお酒を酌み交わしながら色々とお話を伺いました。あるおばあさんから「家の修復や片づけはある程度終わったので仮設住宅をでました。でも、壁に隙間が開いていたりして、まだまだ落ち着かないです」というお話を伺いました。また、被災地近くの高速道路は道路の本復旧工事や、トンネルの内壁点検作業などで一車線通行だったり、新しい家に囲まれないながらもブルーシートで覆われている家があったり、未だ復旧作業は続いています。私たちはテレビや新聞などで情報は得ることはできますが、情報がないといつの間にか忘れてしまいます。

今回炊き出しに行って、まだま

だ震災は終わっては無く、復旧作業も続いていることをしりました。何よりも被災された方々の心の傷はまだまだ癒えていないということです。私たちにできることは限られていますが、震災したことを風化させないことが大事だと思います。



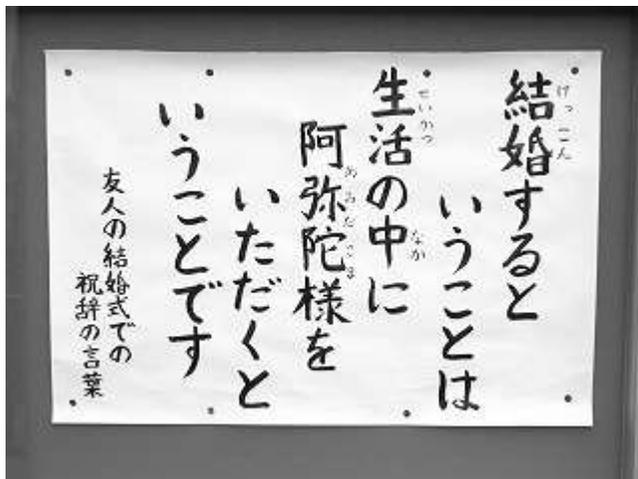
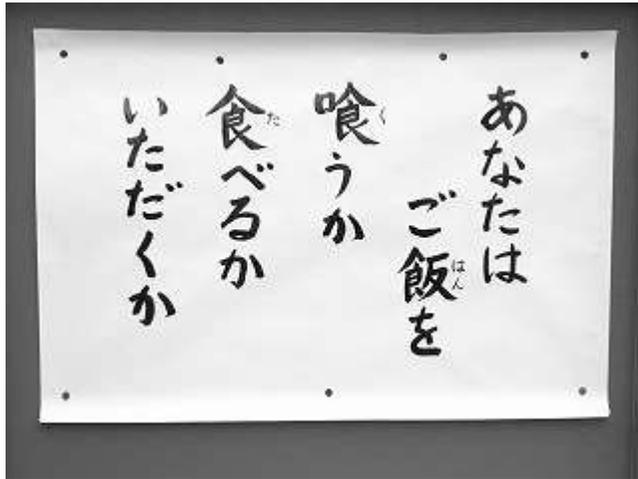
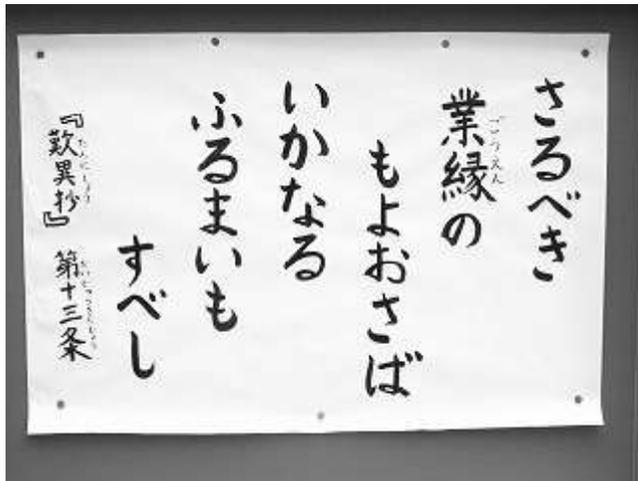
お寺の掲示板

十月
十一月
十二月

十月

十一月

十二月



副住職

仏前にて結婚式を

いたしました

二〇〇八年十二月十三日(土)

本明寺本堂にて先送りにしていましたが、副住職彰一と准坊守有希の仏前結婚式を執り行いました。すでに私たちは共に生活をしていましたし、娘も授かっており、「今更？」と思っていました。しかし、あらためて、阿弥陀様の御前にて誓いをたてますと気が引き締まるというか、「ここからスタート」という気持ちになりました。

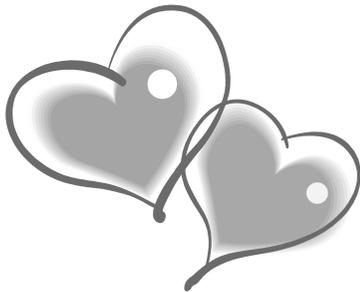
まだまだ未熟者の二人ですので、皆様にご指導ご鞭撻いただき、お育ていただきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

仏前結婚式

式次第

- 先、参列者入堂
- 次、新郎新婦入堂
- 次、司婚者出仕
- 次、開式の辞
- 次、司婚者焼香
- 次、総礼
- 次、敬表白
- 次、勤行（歎仏偈、短念仏、回向）
- 次、司婚のことば
- 次、誓いのことば
- 次、念珠授与
- 次、指輪交換
- 次、新郎新婦焼香・礼拝
- 次、総礼
- 次、司婚者退堂
- 次、新郎新婦交杯

- 次、親族交杯
- 次、乾杯
- 次、結びの辞
- 次、親族紹介
- 次、総礼
- 次、閉式の辞
- 次、新郎新婦退堂
- 次、参列者退堂



表白

夫れ惟れば、夫婦は人倫の大本にして、婚姻は生活の基調なり。それ典儀誠に重くして、厳肅なること正に敬慎すべきなり。

本日ここに阿弥陀如来の尊前において

新郎 本田彰一

新婦 西尾有希

新たに夫婦の契りを結び成婚の儀を挙ぐ。

宿縁の花開いて、芳しく値遇の伴侶相得て共によろこぶ。今や兩人の親故有縁の同朋一同に会し、限りなき慶祝の誠を捧ぐ。然れば爾今、仏祖の教えに従い、己れを修め身を正し、心垢を洗除して、互いに敬愛を旨とし、琴瑟相和し、専ら感恩報謝の生活を営み、以って社会の進展に奉仕せんことを念ず。茲に恭しく如来大悲の照鑑を請い奉る。願わくば、哀愍摂護し奉らんことを

平成二十年十二月十三日

司婚者 釋兼明 敬つて白す



司婚のことば

ただ今 仏前に婚儀を挙げるに当り

新郎 本田彰一さん

新婦 西尾有希さん

に申します。あなた方は今から夫婦として、あ
たらしい家庭生活を歩みだそうとしておられ
ます。ともに受けがたき人身うけ、しかもここ
に二人が結ばれることは、まことにふかい因縁
によることであつて、その家庭は人間としての
人生の対する責務を果すべき厳粛な場であり
ます。互に夫となり妻となり、やがて又親とな
ることによつて、人類の歴史を荷負う一員とな
るのであります。家庭における日常生活の苦楽
のなかに、人間としての無限の意味を照らし出
すものこそ、仏の教えであります。なにとぞ念
仏生活者として心身ともに健やかに人生をす
ごされることを念じてやみません。ここに兩人
の誓いを求めます。

誓いのことば

私たちは、ただ今より新しい生活の歩みをは
じめるにあたり、今までお育ていただいた方々
のご恩を忘れず、み仏の教えをみちびきとし、
ともに敬愛し、力をあわせて励ましあつて、清
らかな家庭を営み、僧侶として寺族として聞法
と求道の生活を歩みつづけることを誓います。

平成二十年十二月十三日

本田彰一
有希

今兩人の誓いを得て一同来会の諸氏と共に
円満な婚儀を成立を認めます。この上は今日の
感激を忘れず、親鸞聖人のご教化に従い、いよ
いよ真摯な聞法者となられることを願つて念
珠を授与します。

◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、經典 浄土三部経
仏説無量寿経
仏説観無量寿経
仏説阿弥陀経
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
南無阿弥陀仏
- 八、称名 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
- 九、勤行 礼拝の生活
《朝夕に勤行をいたしましょう》
- 十、宗風 正信の生活
《迷信に惑わされないで歩みましょう》
聞法の生活
《仏法を聴聞し、生まれた意義と
生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

◆ 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。これからも『明一みょう一』をご愛読いただきたいと思います。

◆ お寺の掲示板に言葉を書き始めて一年になりました。まだまだ拙い字ですががんばって続けていきたいと思えます。

◆ 十二月十三日は副住職の結婚式と共に、唯果（いちか）の一歳の誕生日でもありました。日々、一步二歩三歩と歩けるようになってきました。

発行 真宗大谷派 本明寺
副住職 本田 彰一（釋 彰一）
〒130-0012
東京都墨田区太平二・七-一
TEL 03-3623-1536
FAX 03-3623-1538
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp
URL
<http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>